

インターネットを利用した地域貢献活動について

岡田 工
東海大学

村田 浩平
東海大学農学部

土屋守正
東海大学理学部

スチューデントアチーブメントセンター

takumi@tokai-u.jp

kmurata@agri.u-tokai.ac.jp

mtsuchiya@tsc.u-tokai.ac.jp

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大によって、大学での対面授業が遠隔授業に代わり、ボランティアなど地域貢献活動も制限された。東海大学チャレンジセンター(2020年4月よりスチューデントアチーブメントセンターに改組)では、学生に社会的実践力である4つの力(「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」)を身につけるため、チャレンジプロジェクトを支援してきた。コロナ禍において、学生は地域の人たちと対面で行う課外活動ができなかったため、インターネットを利用して、プロジェクト活動を行なった。今回、インターネットを利用し、地域の小学生たちに環境教育やプロジェクト活動のPRなど、学生による地域貢献活動を行なったので報告する。アフターコロナでも活用できる地域貢献の手法について検討する。

1. はじめに

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大によって、緊急事態宣言が発令され、外出自粛や移動自粛が求められ、感染拡大防止のため3密(密閉空間、密集場所、密接場面)を避けるという要請により、通常の対面授業もインターネットを利用した遠隔授業に代わった。東海大学チャレンジセンターでは、学生の社会的実践力である「4つの力」を育成するため、学生が自ら企画したプロジェクトである「チャレンジプロジェクト」を教職協働で支援している⁽¹⁾。しかし、コロナ禍では、地域へ出向き活動することは感染拡大の要因となってしまう、例年行っていた地域の人たちとの交流やイベントが開催できなくなった。そこで、チャレンジセンターでは、インターネット上でのプロジェクト活動を行うように指導して行った。7月には「チャレンジプロジェクトウィーク」⁽²⁾として、プロジェクトのメンバー募集を行い、約300名の学生たちが、新たにプロジェクトメンバーとして参加したが、例年の4分1程度であった。

2. チャレンジプロジェクトについて

2020年度のチャレンジプロジェクトは、19プロジェクトが活動した(表1)。学生たちはZoomやTeamsを利用してプロジェクト内のミーティングを行なった。チャレンジセンターもTeamsを利用し、各プロジェクトリーダーと連絡し、プロジェクト活動の支援を行なった。ものづくり系のプロジェクトでは大会が軒並み中止となったため、次年度の準備として1年間の活動するプ

表1 2020年度チャレンジプロジェクト一覧

No.	校舎	プロジェクト名
1	湘南	病院ボランティアプロジェクト
2	湘南	スポーツ社会貢献プロジェクト
3	湘南	サイエンスコミュニケーター
4	湘南	キャンパスストリートプロジェクト
5	湘南	Tokai Formula Club
6	湘南	ライトパワープロジェクト
7	湘南	東海大学学生ロケットプロジェクト
8	湘南	Tokai International Communication Club (TICC)
9	湘南	3.11生活復興支援プロジェクト
10	湘南	DAN DAN DANCE & SPORTS プロジェクト
11	湘南	Beijo Me Liga
12	湘南	Tokai Dream Space Team (TDST)
13	湘南	Sunflower
14	高輪	Takanawa 共育プロジェクト
15	熊本	先端技術コミュニティ ACOT
16	熊本	阿蘇援農コミュニティプロジェクト
17	熊本	阿蘇は箱舟プロジェクト
18	熊本	あにまるれすきゅープロジェクト
19	札幌	札幌ボランティアプロジェクト

ロジェクトもあった。
昨年度から企画した多くのイベントが中止され



図1 南阿蘇西小学校における草原環境学習の様子

た中でも、No. 8の「TICC」では、秦野市に住む外国人の小学生たちに Zoom を利用し、学生たちが授業のサポートを行なった。また、No. 19の「札幌ボランティアプロジェクト」では、大学に通えない新一年生のためにネットワーク上でコミュニティをつくり、学生のサポートを行った。

3. インターネットを使った地域貢献

No. 17の「阿蘇は箱舟プロジェクト」は、熊本キャンパスと湘南キャンパスの2つのキャンパスで活動しているプロジェクトである。阿蘇の稀少動植物を保護する活動を行っており、湘南の学生が阿蘇で草刈りをするなど交流もあった。2015年には、Web 会議システムを利用して、湘南キャンパスの近隣である秦野高校の生徒に阿蘇の様子を中継する授業配信も行なった⁽²⁾

また、2020年10月には、Teams を利用し、熊本キャンパスから南阿蘇西小学校の3年生23人に遠隔授業を行なった(図1)。箱舟プロジェクトが製作した紙芝居「オオルリ君の小さな冒険」をアニメーション化し、オオルリシジミや赤牛と除草活動との関係について解説した。また、プレゼンテーション機能を活用し、オオルリシジミの生態や阿蘇の農業と自然環境についての概説、プロジェクトの活動紹介や各活動の体験談を紹介した。参加した小学生からは、オオルリシジミの幼虫の形や寿命について、阿蘇の草原の維持方法やパトロール方法など、多くの質問が出された。

2020年2月には湘南キャンパスの学生が Zoom を



図2 湘南キャンパスでのランタン製作の様子

利用し、近隣の小学生たちに環境教室を開催した。参加者に手作りランタンキットを配布し、ネットワーク越しにランタン製作を行なった。また、クイズ形式でゴミの分別やリサイクル、リユースなど環境問題をテーマに楽しく勉強できた。

4. まとめ

地域貢献は、大学生と地域の人たちとの対面交流が重要となるが、コロナ禍の状況下ではこれらの活動が制限されてしまった。しかし、インターネットを利用することで、地域の子供たちとのコミュニケーションを図ることができた。このように Web 会議ツールを利用することによって、交通費や移動の時間を削減することができる。また、熊本と神奈川をつなげるような遠距離の交流も簡単にできるようになった。アフターコロナの時代になってもインターネットを利用した地域貢献も新しいツールとして利用が可能となる。今後は、高大連携しながら楽しいコンテンツを作ったり、活動の幅を広げたりしていきたいと考えている。

参考文献

- (1) 岡田, 「東海大学チャレンジセンターと4つの力」, 工学教育, 69巻1号 p. 1_69-1_73 (2021)
- (2) 岡田, 村田, 土屋, 「モバイル Wifi ルーターを使用した遠隔授業の実践」, JAEIS2015